2　地理歴史・公民

学校番号	１００８

令和３年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ｂ	単位数	２単位	年次	２年後期
使用教科書	詳説世界史Ｂ　（山川出版社）						
副教材等	最新世界史図説　タペストリー　十八訂版（帝国書院）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史という時間軸を感じる。
・歴史的事象に「なぜ」の視点を持つ。
・歴史を背景とした世界の国の諸事情を踏まえ、現在の日本の在り方を考える。

2 学習の到達目標

・世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ，文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査
	〔主題学習〕 振り返りシート	〔主題学習〕 レポート	〔主題学習〕 レポート	〔主題学習〕 内容のまとまり
	※「主題学習」とは主題を設定して行う学習活動で、適切な時間を確保して行う。			

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期中間まで	世界史への扉①	気候変動と私たち人類の生活	○	○	○	○	a 自然環境と人類の関わりを地理的視点に立って考察することをとおして，世界史学習の意欲を高めている。 b 氷期や火山の噴火といった気候変動の内容と，その危機に人類がどのように立ち向かってきたかを，主体的に考察し，文章にまとめる。 c 自然の脅威や伝染病の拡大といった歴史や，これから起こり得る危機を考察した結果をレポートなどにまとめたり，発表したりする。 d 人類が受けてきた自然環境の制約とそれに適応するための手段を考察することにより，世界史学習における地理的視点の重要性を探究している。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
	世界史への扉②	漂流民のみた世界	○	○	○	○	a 漂流民が日本の視野を広げ，世界との接触a交流を促す役割を果たしたことへの理解をとおして，世界史学習への意欲を高めている。 b 漂流民の活動から，日本史と世界史の関連や交流の歴史的な意義，現代に受け継がれてきた課題を主体的に考察し，文章にまとめる。 c 漂流民の知的関心やコミュニケーション能力の果たした意義をレポートなどにまとめたり，発表したりする。 d 日本と世界の歴史的繋がりを考察することにより，世界史学習における異文化理解の重要性を探究している。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
	世界史への扉③	砂糖からみた世界の歴史	○	○	○	○	a 砂糖生産の伝播にイスラーム世界が大きな役割を果たしたことへの理解をとおして，世界史学習への意欲を高めている。 b 砂糖の生産や消費の変遷，現代では大衆化しているコーヒーや紅茶との出会いが世界にもたらした結果を，主体的に考察し，文章にまとめる。 c 砂糖など日常何気なく利用している品の用途の変化や，その生産・消費の世界史における意義をレポートなどにまとめたり，発表したりする。 d 砂糖・コーヒー・紅茶といった日常的に利用し，慣習化している事柄を考察することにより，世界史との繋がりを見出している。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

	序章	先史の世界	○	○	○	○	a 人類の進化とその特徴について，関心を持って学習しようとしている。 文明の特徴を理解し，人種や民族，語族といった概念を関心を持って学習しようとしている。 b 人類の進化の過程，農耕・牧畜の開始の意義などを，多角的に考察し，文章にまとめる。 人種や民族といった分類を，偏見なく客観的に判断し，文章にまとめる。 c 進化図や道具図，洞穴絵画などの図版や写真，教科書に掲載されている諸言語の系統分類表を適切に活用している。 d 人類の進化，文明の成立，人類と言語の分化に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
	第１章　オリエントと地中海世界	１１．古代オリエント世界	○	○	○	○	a メソポタミアとエジプトの灌漑農業を基盤とした古代文明を，関心を持って学習しようとしている。 アケメネス朝やササン朝の文明の果たした役割を追究しようとしている。 b 六十進法や暦など，オリエントの古代文明の現代にまで与えている影響の大きさを考察し，文章にまとめる。 アケメネス朝やササン朝の文明が，東西諸民族の交流やその文明に影響を与えたことを考察し，文章にまとめる。 c 教科書に掲載されているメソポタミア・エジプトの各文明の資料・図版・写真などを適切に活用している。 アケメネス朝やササン朝の文明を代表する工芸品の図版を活用している。 d 西アジア世界の地理的特質，メソポタミアとエジプトを中心としたオリエント世界の展開，イラン人王朝の活動とその文明の特徴を理解し，その基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		２．ギリシア世界	○	○	○	○	a オリエントの影響を受けたエーゲ文明とポリスを中心とするギリシア文明の意義を探究しようとしている。 b ギリシア文明がアレクサンドロスの遠征で広く西アジア一帯に伝えられたことや，民主政治がのちの世界に与えた影響を考察し，文章にまとめる。 c 教科書に掲載されているギリシア世界の地図やアテネ市街図・重装歩兵の図版，文化一覧表などの諸資料を適切に活用している。 d 地中海一帯の地理的特質，ギリシア文明の形成とその基盤となったポリス世界の特色について，基本的な知識を身につけている。	

		３．ローマ世界	○	○	○	○	a ローマ世界の特色とキリスト教発展の意義を，関心を持って学習しようとしている。 b 皇帝理念やキリスト教の発展をもたらしたローマ文明と，のちのヨーロッパ世界との繋がりを多角的に考察し，文章にまとめる。 c 教科書に掲載されているローマ世界の地図や図版，文化一覧表などの諸資料を適切に活用している。 d ローマの帝国化の過程やローマ法，皇帝理念，キリスト教などについて把握し，基本的な知識を身につけている。	
	第２章　アジア・アメリカの古代文明	１．インドの古典文明	○	○	○	○	a 南アジアの多様な自然条件の中で，北インドを中心にインダス文明やアーリヤ人の諸国家が形成，発展していったことを，関心を持って学習しようとしている。 バラモン教やヴァルナ制度，仏教の特徴について関心を持って学習しようとしている。 b インダス文明の都市的な性格，マウリヤ朝・グプタ朝の発展と宗教との繋がり，南インドの非アーリヤ人王朝の動向を多角的に考察し，文章にまとめる。 ヒンドゥー教とカースト制が南アジア世界に統一性を与える要素となったことや，仏教の伝播の意義を多角的に考察し，文章にまとめる。 c 教科書に掲載されているインダス文明とアーリヤ人の進入を示した地図やインド諸王朝の領域図，仏教伝播の資料，遺跡や仏像などの写真を適切に活用している。 d 高度な都市文明であったインダス文明の特色とアーリヤ人・非アーリヤ人の王朝の展開を理解し，その基本的な知識を身につけている。 ヒンドゥー教とカースト制の特徴，南アジアにおける仏教衰退の理由を把握し，その基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		２．東南アジアの諸文明	○	○	○	○	a 東南アジアの諸民族独自の歩みや国家形成を，南アジア文明や中国文明の影響と関連させながら学習しようとしている。 b 東南アジアの諸民族が海上交易の拡大に伴って港市国家を形成・発展させていった過程を多角的に考察して把握し，文章にまとめる。 c 教科書に掲載されている東南アジアの地図や宗教遺跡などの写真を適切に活用している。 d 東南アジア諸民族がインド・中国文明の影響を受けながら，独自の発展をしていったことを理解し，その基本的な知識を身につけている。	

		３．中国の古典文明	○	○	○	○	a モンスーン気候地帯に属している東アジア世界の風土とともに，黄河・長江の新石器文明から殷・周，秦・漢帝国という中華文明形成期の社会や文化の特質を追究しようとしている。 b 殷・周時代の文字や秦・漢帝国の皇帝観など，中華文明の重要な要素の出現の意義を考察し，文章にまとめる。 周辺諸国との冊封関係などから，中国を中心とする東アジア世界の骨格が形成されたことを考察し，文章にまとめる。 c 農耕を中心とする東アジアの社会や生活，文化や思想に関する資料を収集し，考察した結果を適切に表現している。 教科書に掲載されている東アジアの地勢図や歴史地図，図版を適切に活用している。 d 中国文明の起源である黄河・長江文明，殷・周時代と春秋・戦国時代の社会変動や新思想の形成を理解し，その基本的な知識を身につけている。 秦・漢帝国の意義や世界との繋がりを理解し，その基本的な知識を身につけている。	
		４．南北アメリカ文明	○	○	○	○	a 南北アメリカ文明の基層文化とインカ・アステカ両王国の特色を，関心を持って学習しようとしている。 b アメリカ先住民の農耕文明の特色と，マヤ文明などの都市文明の独自性を考察し，文章にまとめる。 c 南北アメリカ文明の形成とその特色を考察する際，地図や遺跡などの写真を適切に活用している。 d アメリカ先住民の農耕文明や，マヤ・アステカ・インカといった南北アメリカ諸文明の特色を把握し，その基本的な知識を身につけている。	
	第３章　内陸アジア世界・東アジア世界の形成	１．草原の遊牧民とオアシスの定住民	○	○	○	○	a スキタイの影響を受けた匈奴など騎馬遊牧民による国家の活動を，オアシス民の生活と比較しながら学習しようとしている。 b 内陸アジア東部に進出した匈奴を代表とする騎馬遊牧民の動向を，その文化や軍事力と関連づけて考察し，文章にまとめる。 c 教科書に掲載されている内陸アジアの地勢図，オアシスの生活を理解するカレーズなどの図版や遊牧民写真などを適切に活用している。 d 内陸アジアの乾燥した風土を理解し，匈奴を代表とする騎馬遊牧民と秦・漢帝国のオアシス都市の覇権をめぐる抗争に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

		２．北方民族の活動と中国の分裂	○	○	○	○	a 北方諸民族の王朝と江南に移った漢族の王朝の興亡に関して，その社会経済や文化を比較しながら学習しようとしている。 b 魏晋南北朝時代の社会経済の変化，日本をはじめとする周辺国家の形成を中国史全体の流れと関連づけて考察し，文章にまとめる。 c 教科書に掲載されている分裂時代の諸王朝の領域図や，魏晋南北朝の系統図などの資料や図版を適切に活用している。 d 遊牧民の華北進出と定住化，均田制などの新しい制度のしくみを理解し，中国分裂期の基本的な知識を身につけている。	
		３．東アジア文化圏の形成	○	○	○	○	a 隋唐帝国の成立が遊牧民と漢人の融合，内陸アジアでの突厥の成立を背景にしていることを理解し，その役割を日本など隣接諸国の動向とともに学習しようとしている。 b 唐王朝が名実ともに東アジア文化圏を形成したことを，その築き上げた整然とした国家制度や文化から判断し，文章にまとめる。 c 唐王朝の社会や文化の国際性を示す資料・図版・写真などを適切に活用している。 c 正倉院・ササン朝のガラス工芸品の図版などから，文化の密接な交流の例を調べている。 d 律令制度や文化の理解に加え，唐王朝が東アジア世界と内陸アジア世界を含む政治的秩序を形成したことを把握し，日本や新羅などの国家体制の整備に関する基本的な知識を身につけている。	
	第Ⅰ部まとめ	主題学習Ⅰ　時間軸からみる諸地域世界	○	○	○	○	a 古代帝国がその支配の根本にどのような思想や宗教をおいていたか確認しようとしている。 ローマ史を例に主題の事項を年代順に整理したり，因果関係を考察しようとしている。 b 各地域世界における古代帝国発展の独自性を考察し，文章にまとめる。 ローマが世界帝国へ発展する推移を年表に整理して把握し，文章にまとめる。 c 宗教の成立を考察する際，古代文明における王・神官の像や資料などを適切に活用している。 自ら設定した主題を時間的繋がりで整理し，考察したことを発表・討論したりする。 d 文明の形成された諸地域の地理的特質や，古代帝国の形成に関する基本的な知識を身につけている。 主題を設定し，関連する事項を年代順に並べたり，因果関係で結びつけたりする技能を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

後期期末まで	第４章　イスラーム世界の形成と発展	１．イスラーム世界の形成	○	○	○	○	a ムハンマドの活動やイスラーム教の特質について，関心を持って学習しようとしている。 イスラーム帝国の統治システムについて，関心を持って学習しようとしている。 b イスラーム教の成立を西アジアの情勢や社会的な背景と関連づけて考察し，文章にまとめる。 アラブ帝国とイスラーム帝国の差異，イスラーム世界の拡大について，多角的に考察し，文章にまとめる。 c 教科書に掲載されているイスラーム以前の西アジアの地図やイスラーム世界の領域図，ウマイヤ＝モスクやコルドバのモスクなどの写真を適切に活用している。 d イスラームの特質やその形成過程について，基本的な知識を身につけている。 カリフによる征服活動や，イスラーム法に基づくアッバース朝の国家体制に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		２．イスラーム世界の発展	○	○	○	○	a イスラーム世界の分裂と変容の過程について，関心を持って学習しようとしている。 ムスリム商人が築いた海域・内陸のネットワークについて，関心を持って学習しようとしている。 b イスラーム世界の東方への拡大と西方における変容を，内陸アジア世界やヨーロッパ世界の動向と関連づけて考察し，文章にまとめる。 経済の発展についてカイロの繁栄を軸に考察し，文章にまとめる。 c 教科書に掲載されている11世紀後半のイスラーム世界の地図，マムルークの図版やアズハル＝モスクの写真などを適切に活用している。 d トルコ系民族を軸としたイスラーム世界の諸地域における発展に関して，基本的な知識を身につけている。 ムスリムの交易活動やイクター制の内容を理解している。	
		３．インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化	○	○	○	○	a インドや東南アジア，アフリカのイスラーム化とその地域に与えた影響について，意欲的に学習しようとしている。 b インドや東南アジアなど諸地域世界のイスラーム化の影響を，現代の国際政治・社会の視点から考察し，文章にまとめる。 c インドや東南アジアへのイスラームの伝播を示す地図，アフリカのイスラーム化に関する地図や図版などを適切に活用している。 d 諸地域世界のイスラーム化の過程，ムスリム商人や神秘主義(スーフィー)教団の果たした役割に関する基本的な知識を身につけている。	

		４．イスラーム文明の発展	○	○	○	○	a イスラーム文明の具体的な影響や役割，形成されたネットワークの意義について意欲的に学習しようとしている。 b イスラーム世界の統一性が守られてきた理由を，イスラーム文明の基盤から考察し，文章にまとめる。 c イスラームの生活を理解する図版・写真などを適切に活用している。 音楽やミニアチュールなどを活用し，イスラーム文明の特色に触れることができている。 d イスラーム文明が古代以来の西アジア文明を基盤としてユーラシア各地の要素を加えて形成された融合文明であることを理解し，その学問と文化活動の基本的な知識を身につけている。	
	第５章　ヨーロッパ世界の形成と発展	１．西ヨーロッパ世界の成立	○	○	○	○	a フランク王国とローマ教皇の提携の意義，ノルマン人などの諸民族侵入の影響について，関心を持って学習しようとしている。 b 地中海世界の解体をゲルマン人の移動やイスラーム勢力の進出と関連づけて考察し，文章にまとめる。 封建社会の仕組みとローマ教皇権の発展を多角的に考察し，文章にまとめる。 c 教科書に掲載されている地勢図や領域図，ゲルマンなど諸民族の移動図などを適切に活用している。 荘園の構造などの概念図や図版・写真・資料を適切に活用している。 d ゲルマン人の移動やノルマン人などの諸民族の侵入による影響，フランク王国とローマ教皇の提携の意義など，西ヨーロッパ世界の形成と発展に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		２．東ヨーロッパ世界の成立	○	○	○	○	a ビザンツ帝国の特色とスラヴ人など周辺民族の活動を意欲的に学習しようとしている。 b ビザンツ帝国の首都コンスタンティノープルが経済的に発展した理由や，帝国とスラヴ人との関係を多角的に考察し，文章にまとめる。 c 教科書に掲載されているビザンツ帝国や東ヨーロッパ世界の領域図，特色ある聖堂や聖母子のイコン，モザイク壁画などの図版を適切に活用している。 d ビザンツ帝国やスラヴ人諸国家によって形成された，東ヨーロッパのギリシア的世界の多様性に関して，基本的な知識を身につけている。	

		３．西ヨーロッパ中世世界の変容	○	○	○	○	a 西ヨーロッパの中世都市の発展や封建社会の変容過程を，関心を持って学習しようとしている。 中世西ヨーロッパ諸国の政治 a 社会の動向について，関心を持って学習しようとしている。 b 封建社会の変容やヨーロッパの拡大を，国王による中央集権化と関連づけて考察し，文章にまとめる。 商業の発展や自治都市の形成を，封建社会の衰退と関連づけて考察し，文章にまとめる。 c 教科書に掲載されている十字軍と西ヨーロッパ勢力の拡大，中世都市・交通路と二大商業圏などの地図や，マグナカルタ・英仏の系図などの資料，図版を適切に活用している。 d 西ヨーロッパ封建社会の変容，中世都市と商業の発展，諸国の国王による中央集権化の過程に関する基本的な知識を身につけている。	
		４．西ヨーロッパの中世文化	○	○	○	○	a 中世文化の特色とキリスト教会の果たした役割について関心を持って学習しようとしている。 b 修道院運動やイスラーム文明の影響など，中世ヨーロッパ文化を多面的に考察し，文章にまとめる。 c 教会建築や騎士道物語，当時の農民や都市の生活の様子を理解する図版などにより，中世ヨーロッパ社会の特色に触れることができている。 d 修道院の果たした役割，12世紀ルネサンスや美術 d 文学など，中世文化に関する基本的な知識を身につけている。	
	第６章　内陸アジア世界・東アジア世界の展開	１．トルコ化とイスラーム化の進展	○	○	○	○	a トルコ人のイスラーム化と西方への民族移動の世界史的影響について関心を持って学習しようとしている。 b トルコ民族の内陸アジアにおける台頭を，トルキスタンの成立と関連づけて考察し，文章にまとめる。 c 教科書に掲載されている中央アジアのトルコ化と東西トルキスタンの地図，「ハープを弾く女性」などの図版を適切に活用している。 d 遊牧国家ウイグルの崩壊以降，トルコ系遊牧民が広く内陸アジアに定住し，イスラーム化していったことに関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

		2．東アジア諸地域の自立化	○	○	○	○	a 中国周辺諸国の変化，契丹や女真と宋の政治的・軍事的対立と交流，宋代の産業や文化の発展について関心を持って学習しようとしている。 b 中国周辺諸国の独自の文化形成，遊牧諸国家の支配体制の特徴，宋の統治体制とその社会や文化の特色を，東アジア文化圏の統合力の変化という視点から考察し，文章にまとめる。 c 教科書に掲載されている通行証に記された諸民族の文字や，「清明上河図」など宋代の社会・文化の特色を示す写真・図版などを適切に活用している。 d 日本や高麗といった東アジア周辺諸国の政治権力の交替や，文化の確立に関する基本的な知識を身につけている。 契丹や女真の二重支配体制の仕組み，宋の中央集権的統治体制とその社会経済の発展や中国的文化の特色に関して，基本的な知識を身につけている。	
		3．モンゴルの大帝国	○	○	○	○	a モンゴル帝国が掌握した内陸アジア全体におよぶネットワークとその影響について，関心を持って学習しようとしている。 モンゴルの侵攻を乗り越えて中国との交易を続けた日本の動向について，関心を持って学習しようとしている。 b モンゴル帝国が内陸アジア諸都市の，また元朝が海域のネットワークを支配下においた意味を，社会経済的な視点から考察し，文章にまとめる。 c 教科書に掲載されているモンゴル帝国の領域図や帝室の系図・図版・写真などを適切に活用している。 d モンゴル帝国のユーラシアと元朝の東アジア支配の過程と，その支配の特色に関する基本的な知識を身につけている。 モンゴル人が築き上げたネットワークと，14世紀以降，その再編・解体がもたらした諸地域世界への影響に関する基本的な知識を身につけている。	

	第Ⅱ部　まとめ	主題学習Ⅱ　空間軸からみる諸地域世界	○	○	○	○	a 諸地域世界の交流が活発化した背景に，イスラームが構築したネットワークがあることを確認しようとしている。 イブン＝バットゥータが訪問した諸都市を辿ることにより，諸地域世界の交易ルートや人々の移動範囲などを空間的に学習しようとしている。 b 諸地域世界をつなぐことになった商品や運搬手段などを，交流のきっかけとなった事象に関連づけて考察し，文章にまとめる。 イブン＝バットゥータの足跡を辿ることにより，ユーラシアのネットワークが東西だけでなく，南北にも結びついていることを判断している。 c 諸地域世界の交流を考察する際，ユーラシアのおもな商業ルートの地図や商品の図版，旅行家の著作などの資料を適切に活用している。 イブン＝バットゥータの例だけでなく，自ら設定した主題を地図上に表現したり，空間的な繋がりで整理・考察したことを発表・討論する。 d ユーラシア海域および内陸のネットワークの形成と，諸地域世界の動向や交流に関する基本的な知識を身につけている。 主題を設定し，関連する事項を地図で表現したり，世紀ごとに比較したりすることをとおして，空間的な繋がりで整理し，表現する技能を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。